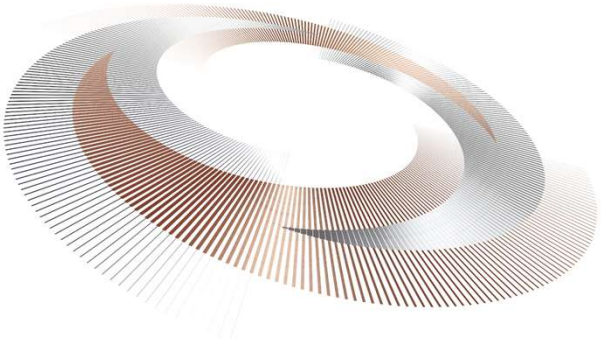
2027年３月期第２四半期決算補足説明資料

2026年11月11日

三菱マテリアル

CEOの田中でございます。
本日は、当社の2027年3月期第2四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。
今上期は、金属価格の上昇や円安、自動車・半導体関連需要の改善を背景に、上期として過去最高益となりました。
過去最高益は喜ばしい結果ですが、私としては、市況や計上時期による要因と当社自身の取り組みによる成果を見分け、「利益の質」を評価することが重要だと考えています。
本日は、こうした「利益の質」の観点から、今上期の業績と今後の見通しについてご説明いたします。

それでは、4ページのエグゼクティブサマリをご覧ください。



人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する

限りある資源を大切に使うために、使用済みの製品を資源として再生させる。
そこに新たな価値を付加し、再び社会に送り出す。
その循環のプラットフォームを構築し、自らプレイヤーとして価値を創出する。
そして未来に向けて、持続可能な社会の実現に力強く貢献し、循環の輪を広げていく。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

目次

1．エグゼクティブサマリ　P.4

2．2027年３月期第２四半期実績　P.7

3．2027年３月期通期予想　P.11

4．参考情報　P.16

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

エグゼクティブサマリ　1/3

事業環境・予想前提

- **自動車関連**は、日本・東南アジアは堅調に推移し、全体として前回見通しから改善、当社の伸銅品・超硬製品の需要環境は回復基調で推移
- **半導体関連**は、AI関連需要を中心に引き続き堅調、当社の伸銅品・高機能製品の需要環境は改善傾向で推移
- **為替**は、前年対比で円安だが足元は円高傾向、**銅価格**も高値圏で推移
- **APT価格**は、前年同期比で高値圏にある一方、足元では調整の兆し。価格上昇による利益押上げを見込む一方、市況反転リスクへの対応を進める

中経推進

中期経営戦略（2026～2028年度）の施策を着実に推進

＜公表類＞

- 日本新金属タングステンスクラップ処理能力増強*1
- 超硬製品の日本国内販売統合*2

＜中経の浸透＞

- 執行役による各拠点訪問（中経キャラバン）　17回

＜量から質への転換＞

- APT価格変動への対応をタングステン事業と超硬事業共同で実施中

*1 2026年9月9日　日本新金属(株)におけるタングステンリサイクル能力増強投資について
*2 2026年10月7日　子会社の新設及び会社分割（簡易吸収分割）に関するお知らせ
2026年10月28日　（開示事項の経過）切削工具の販売に係る事業の承継会社の設立について

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

4

まず、事業環境についてご説明いたします。
自動車関連では、日本および東南アジアの需要が堅調に推移しており、当社の伸銅品・超硬製品の需要環境についても、前回見通しから改善しています。
また、半導体関連では、AI関連需要を中心に引き続き堅調な状況が続いており、当社の伸銅品・高機能製品についても、需要環境は改善傾向で推移しています。
こうした需要の改善は、販売数量の増加を通じて、業績にも表れています。
一方、為替については、前年同期比では円安となりましたが、足元では円高方向への動きも見られます。また、銅価格は引き続き高値圏にあります。
タングステンの中間材料であるAPT価格については、前年同期から大きく上昇し、事業面では機動的な価格の適正化によって対応を進めていますが、その一方で、足元のAPT価格には調整の兆しも見られます。そのため、価格上昇による収益機会を確実に取り込むと同時に、市況が反転した場合のリスクも見据えた対応を進めています。
こうした外部環境への対応と並行して、中期経営戦略も着実に実行しています。
タングステン事業では、日本新金属におけるスクラップ処理能力の増強を決定しました。また、超硬製品事業では国内販売体制の統合を決定しました。
これらの施策により、タングステンのリサイクル基盤と超硬製品の国内販売体制を強化します。
さらに、タングステン事業と超硬事業が連携して価格変動に対応し、市況変動に強い収益構造と資本効率の向上につなげてまいります。
以上を踏まえ、今上期は、事業環境の好転を業績に結び付けるとともに、市況変動に強い収益構造の実現に向けた施策を具体化した半期であったと評価しています。

続いて、5ページをご覧ください。

エグゼクティブサマリ　2/3

2027年3月期上期実績

タングステン・銅・金等の金属価格の上昇、為替の円安、自動車・半導体関連の需要拡大を背景に増収増益。上期として過去最高益

売上高　　：12,474億円（前年比+4,174億円）
営業利益　：　1,165億円（前年比+1,056億円、在庫評価影響除く実力差+943億円）
経常利益　：　1,579億円（前年比+1,412億円、在庫評価影響除く実力差+1,299億円）
当期純利益：　1,208億円（前年比+1,153億円）

2027年3月期通期予想

上期実績および足元の事業環境を踏まえ、通期業績予想を増収増益へ上方修正。主に上期のタングステン・銅等の金属価格の上昇に加え、超硬製品の価格適正化や半導体向け増販等を反映
配当予想は据え置き。株主還元は、 今後の投資計画、財務規律等の見通しに関する精査を踏まえ今後判断

売上高　　：24,500億円（前回予想比+500億円）
営業利益　：　1,650億円（前回予想比+350億円、在庫評価影響除く実力差+356億円）
経常利益　：　2,200億円（前回予想比+400億円、在庫評価影響除く実力差+410億円）
当期純利益：　1,600億円（前回予想比+200億円）

配当予想　：年間116円/株（前回予想比±0円/株）

*DOE（年間配当総額/前期末の株主資本）2.5%を目途

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

上期実績は、売上高1兆2,474億円、営業利益1,165億円、経常利益1,579億円、親会社株主に帰属する当期純利益1,208億円となり、上期として過去最高益となりました。
この結果と足元の事業環境を踏まえ、通期業績予想についても、売上高を2兆4,500億円、営業利益を1,650億円、経常利益を2,200億円、親会社株主に帰属する当期純利益を1,600億円に上方修正しました。
今回の上方修正には市況やタイミングによる要因も含まれていますが、販売価格の適正化、需要拡大の取り込み、原料構成の改善など、当社自身の取り組みによる収益改善も着実に進んでいます。
重要なのは、こうした改善を一過性の利益に終わらせず、来期以降にもつながる構造的な収益力として定着させることです。
配当予想につきましては、年間116円で据え置いています。
株主還元のあり方については、今後の成長投資計画や財務規律目標の達成見通しを精査したうえで、キャッシュ・アロケーション全体を踏まえて判断してまいります。

続いて、6ページをご覧ください。

エグゼクティブサマリ　3/3

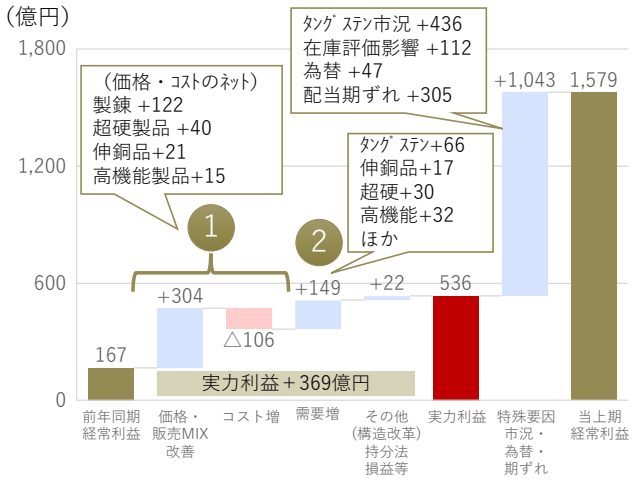
利益の質：経営努力による上期利益改善＋369億円、FCF見通しも改善

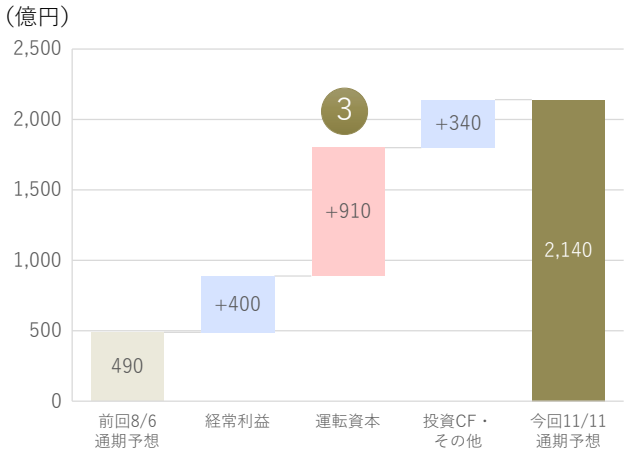
2027年3月期 上期実績

1. 機動的な販売価格への転嫁、実収効率・原料構成・販売ミックスの改善によりコスト増（金属価格上昇、TC/RC悪化など）をカバー
2. 安定調達力・供給力を強みに需要を捕捉

2027年3月期 通期FCF見通し

3. 調達、生産、在庫、販売、回収までを含む事業プロセス（契約条件・商流など）の見直しを通じて、運転資本を構造的に改善継続





Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

6

ここまで、上期の業績と通期の見通しについてご説明してきました。
一方で、冒頭でも申し上げたとおり、私たち経営として重要なのは、単に数字を見るだけではなく、その「質」をどう評価するかという点です。
この点を具体的にお伝えするため、6ページに利益の「質」を整理しました。
まずお伝えしたいのは、前年比1,412億円の増益のうち、当社自身の経営努力による利益改善額を369億円と評価していることです。これは、私たちが最も重視している点です。
今上期の業績を評価するうえで、経営として特に重視したのは2点です。
一つは、TC/RCの悪化や原料価格上昇を、価格適正化や生産性改善でカバーできたか。
もう一つは、不安定な調達環境の中でも、伸びる需要を確実に取り込めたかという点です。
資料左側の滝グラフでは、価格適正化や生産性改善、需要の取り込みが利益改善にどう寄与したかを示しています。
これは、来期以降にもつながる重要な成果だと評価しています。
加えて、利益の質を考えるうえでは、資料の右側に示すように、フリー・キャッシュ・フローの見通しについても大きく改善することができました。
第1四半期では、利益の伸びが十分にキャッシュにつながっていないことを課題として申し上げました。
その後、全社で「利益をいかに早くキャッシュに変えるか」を議論し、棚卸資産や売掛債権など運転資本の構造そのものに踏み込んで改善を進めています。
その結果、フリー・キャッシュ・フローの見通しを大きく引き上げることができたことも、今上期の大きな成果だと考えています。
下期も、経営努力による利益改善と、利益をキャッシュに変える取り組みを継続し、これを当社の経営の仕組みとして定着させてまいります。

ここからは、業績および財務面の詳細について、CFOの平野よりご説明いたします。

2027年3月期上期実績　連結業績概況

タングステン・銅・金等の金属価格の上昇や、為替の円安に加え、自動車・半導体関連の需要拡大、超硬製品の価格適正化を背景に増収増益。
特別損益は前年同期比で改善。小名浜製錬における銅精鉱処理停止に伴う事業規模の縮小等により、希望退職加算金を特別損失に計上

（単位：億円）	26年3月期 上期実績	27年3月期 上期実績	増減
売上高	8,299	12,474	+4,174
営業利益 （在庫評価影響除く）	109 (162)	1,165 (1,106)	+1,056 (+943)
受取配当金	24	345	+321
持分法損益	91	136	+45
経常利益 （在庫評価影響除く）	167 (223)	1,579 (1,522)	+1,412 (+1,299)
特別損益	△77	91	+168
親会社株主に帰属する当期純利益	54	1,208	+1,153

		26年3月期 上期実績	27年3月期 上期実績	増減
ドル為替	(円/$)	146	159	+13
ユーロ為替	(円/€)	168	184	+16
銅価格	(¢/lb)	438	622	+184
金価格	($/oz)	3,367	4,392	+1,025
パラジウム価格	($/oz)	1,081	1,360	+279
APT*価格 (タングステン)	($/MTU)	465	3,046	+2,581

*APT（パラタングステン酸アンモニウム）：タングステン中間生成物

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

7

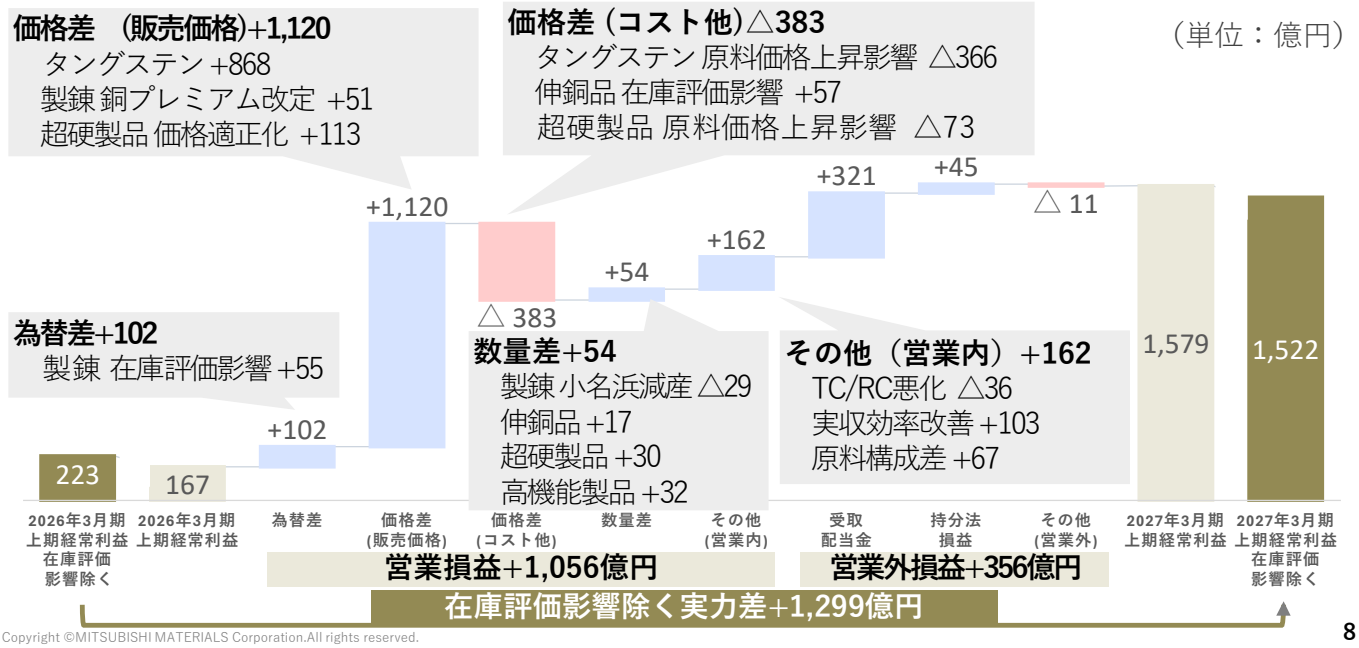
平野でございます。
私からは、上期実績と通期予想について、主な変動要因と財務面を中心にご説明いたします。
7ページをご覧ください。
冒頭の田中の説明のとおり、当上期は、金属価格の上昇や円安に加え、自動車・半導体関連需要の取り込みおよび超硬製品・伸銅品・高機能製品における価格適正化などを背景に増収増益となりました。
また、特別損益は前年同期比で改善しましたが、小名浜製錬における銅精鉱処理停止に伴う事業規模の縮小等により、希望退職加算金を特別損失に計上しています。

8ページをご覧ください。

2027年3月期上期実績　利益増減要因内訳

営業利益　：タングステン価格上昇に伴う価格差に加え、製錬の原料構成差、半導体関連の需要拡大の取り込み、価格適正化などにより大幅増益。TC/RC悪化は銅プレミアム改定で吸収

経常利益　：営業利益の増益、ロスペランブレス銅鉱山からの配当金受領、持分法損益の増加などにより増益



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

8

上期の経常利益は、前年同期比1,412億円の増益です。
営業損益では、先ほど田中からご説明したとおり、TC/RCの悪化や原料価格上昇などのコスト増を価格適正化や生産性改善によってカバーするとともに、不安定な調達環境の中でも需要増を着実に取り込めたことが、今上期の成果と捉えています。
一方、営業外損益では、鉱山からの受取配当金や持分法損益の増加が利益を押し上げています。ただし、ここには銅価格の上昇や円安による押し上げに加え、鉱山配当の計上時期による影響も含まれている点には留意が必要です。
特にロスペランブレス銅鉱山からの配当については、前年度末から今上期への期ずれ95億円に加え、例年第3四半期に受領していた210億円を今期は9月に受領しています。
これら計上時期による影響は、今上期の実力損益を見極めるうえで、切り分けて評価する必要があります。

次のスライドにお進みください。

2027年3月期上期実績　利益増減要因内訳（セグメント別）

製錬・資源循環 価格差　：タングステン価格高騰前の低価格在庫払出効果 +502[*1]
製錬・資源循環 為替差　：円安による原材料の在庫評価影響 +55
超硬製品 価格差　：原材料価格の上昇と価格適正化効果 +40
伸銅品・高機能製品 数量差：半導体需要増に伴う増販 伸銅品+17、高機能+32

（単位：億円）	26年3月期上期実績	27年3月期上期実績	増減	増減要因							
				営業損益					営業外損益		
				為替差	価格差（販売価格）	価格差（コスト他）	数量差	その他	受取配当金	持分法損益	その他
マテリアル領域	41	954	+913	+66	+992	△308	△5	+156	+0	+12	△0
製錬・資源循環	19	893	+874	+66	+973	△369	△23	+214	+0	+12	+0
伸銅品	1	106	+105	+0	+18	+60	+17	+8	+0	-	△0
プロダクト領域	72	260	+187	+36	+128	△73	+62	+40	△0	+4	△10
超硬製品	58	184	+126	+31	+113	△73	+30	+32	△0	-	△7
高機能製品	13	75	+61	+4	+15	△0	+32	+7	△0	+4	△3
資源	33	395	+361	△0	-	-	△0	+1	+321	+40	△1
再生可能エネルギー	△8	12	+20	-	+0	△1	+9	+1	-	+3	+8
その他[*2]	28	△43	△71	△0	-	-	△12	△36	△0	△15	△6
合計（経常利益）	167	1,579	+1,412	+102	+1,120	△383	+54	+162	+321	+45	△11

[*1]販売価格・原料コスト差引効果（p.8 ご参照）　[*2]その他事業、連結調整額含む

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

9

こちら9ページは、利益増減要因をセグメント別に示しています。
主な増益要因は、先ほどの説明のとおり、製錬・資源循環におけるタングステンの低価格在庫払出し効果や原料構成・実収効率の改善に加え、伸銅品・高機能製品における半導体需要増の取り込み、超硬製品における価格適正化などです。

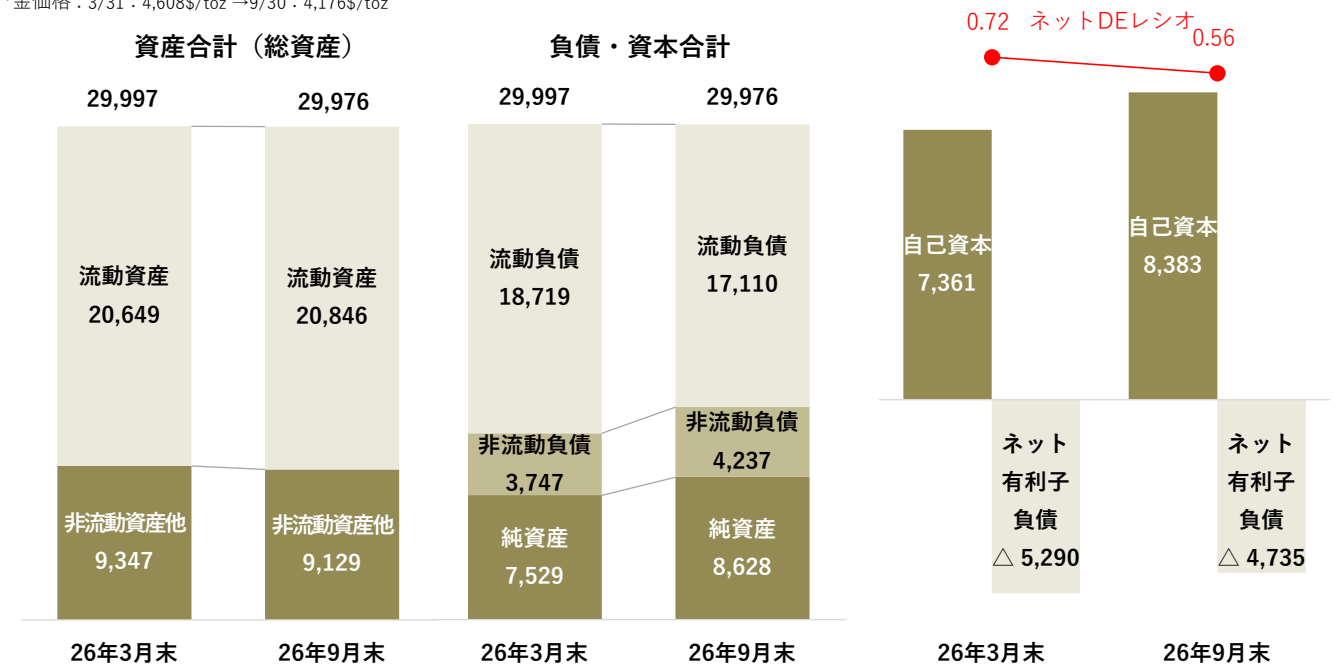
続いて、10ページをご覧ください。

2027年3月期上期実績　連結財政状態

総資産　：金属価格下落*による貸付金地金等の減少により減少
ネットDEレシオ　：財務規律を意識した運営を継続し、前期末同水準に対し改善
自己資本比率　：28.0%（預り金地金を除く44.3%）

*金価格：3/31：4,608$/toz →9/30：4,176$/toz

（単位：億円）



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

10

9月末時点の連結財政状態です。
自己資本は前期末7,361億円から8,383億円へ増加し、ネット有利子負債は5,290億円から4,735億円へ減少しました。
この結果、ネットD/Eレシオは、前期末の0.72倍から0.56倍へ改善しました。
上期の利益の積み上がりにより、財務体質は着実に改善しています。
一方で、今後の成長投資とのバランスも重要です。引き続き成長投資に必要な財務余力を確保しながら、財務規律を意識したバランスシート運営を継続してまいります。

続いて、11ページをご覧ください。通期業績予想です。

2027年3月期通期予想　連結業績概況

上期の金属価格の上昇に加え、超硬製品の価格適正化、半導体向け増販等を反映。
当期純利益は、構造改革進展に伴う費用計上により増益幅縮小の見込み。
ROIC*1は、増益に加え、運転資本の削減効果により改善の見通し

（単位：億円）	前回8/6 通期予想	今回11/11 通期予想	増減
売上高	24,000	24,500	+500
営業利益 （在庫評価影響除く）	1,300 (1,265)	1,650 (1,622)	+350 (+356)
受取配当金	373	457	+84
持分法損益	300	319	+18
経常利益 （在庫評価影響除く）	1,800 (1,764)	2,200 (2,175)	+400 (+410)
特別損益	39	0	△39
親会社株主に帰属する当期純利益	1,400	1,600	+200
ROIC*1 (%)	13.7	16.7	+3.0
ROE (%)	18.5	20.1	+1.6

		前回8/6 通期予想	今回11/11 通期予想	増減
ドル為替	(円/$)	158	159	+1
ユーロ為替	(円/€)	181	182	+1
銅価格	(¢/lb)	579	606	+27
金価格	($/oz)	4,129	4,196	+67
パラジウム価格	($/oz)	1,178	1,230	+52
APT価格 （タングステン）	($/MTU)	3,017	2,773	△244

感応度*2		3Q以降 影響額
ドル為替	営業利益±1円/$	2.0
ユーロ為替	営業利益±1円/€	0.9
銅価格	(a)営業利益±10¢/lb	1.5
	(b)営業外損益±10¢/lb	7.9
	(a+b)経常利益±10¢/lb	9.4

*1 （（経常利益＋ネット支払利息ー持分法投資損益）×（１－実効税率）＋持分法投資損益）÷投下資本
*2 感応度に在庫評価影響は含まない

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

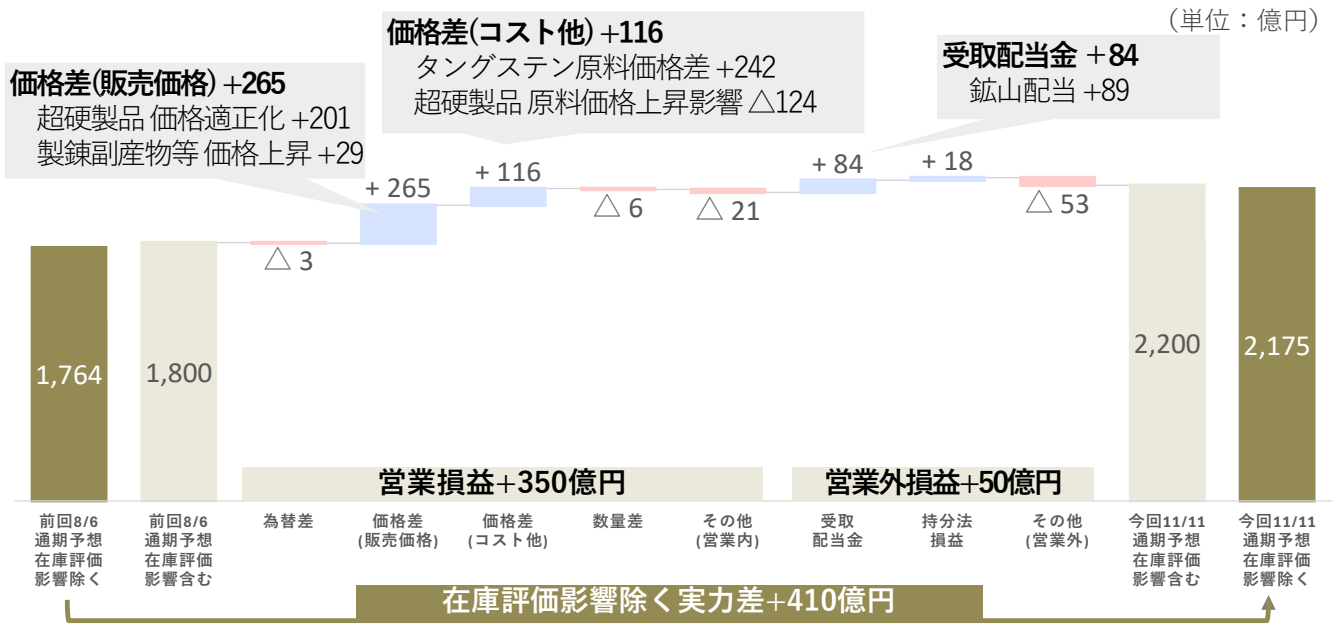
今回、上期実績と足元の事業環境を踏まえ、第3四半期以降の金属価格等の前提条件を見直すとともに、各事業における収益改善を反映し、通期業績予想を上方修正しました。
為替・金属価格等の年間平均の前提条件は、資料右側に記載のとおりですが、下期6か月だけを取り出した場合には、為替1ドル158円、銅価格590セント／lb、APT価格2,500ドル／MTUを前提としています。
事業面では、半導体関連製品の増販、超硬製品の追加的な価格適正化に加え、鉱山配当および持分法損益の増加を織り込んでいます。
この結果、前回予想から営業利益を350億円、経常利益を400億円上方修正しています。
なお、当期純利益については、構造改革の進展に伴う費用計上を織り込んでいるため、経常利益に比べ上方修正幅は小さくなっています。
また、ROICは前回予想の13.7％から16.7％へ、ROEは18.5％から20.1％へ改善する見通しです。
今回のROIC改善には利益の増加が大きく寄与しますが、私どもが重視しているのは、利益率の改善だけではありません。投下資本、特に運転資本の最適化も並行して進めてまいります。

続いて、12ページをご覧ください。

2027年3月期通期予想　利益増減要因内訳（前回8/6通期予想対比）

営業利益：上期実績の反映、タングステン原料価格差、超硬製品価格適正化等により増益

経常利益：営業利益の増加に加え、銅価上昇・円安による受取配当金および持分法利益の増加により増益の見通し



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

12

12ページには、前回予想から経常利益を400億円上方修正した要因を示しています。
今回の上方修正には、金属価格等の前提条件変更やタングステンの原料価格差に加え、超硬製品の価格適正化など、当社自身の取り組みによる改善も寄与しています。
営業外では、銅価格の上昇や円安を踏まえ、鉱山からの受取配当金見通しを引き上げています。
このように、外部環境の追い風だけでなく、自らコントロールできる施策による収益改善も、今回の上方修正に反映しています。

2027年3月期通期予想　セグメント別増減内訳（前回8/6通期予想対比）

製錬・資源循環 価格差：タングステン原料価格差他 +242
超硬 価格差　　：原材料価格の上昇と追加の価格適正化効果 +77
資源 受取配当金　　：銅価上昇・円安推移を踏まえた鉱山配当見通しの更新+89

（単位：億円）	前回 8/6 通期 予想	今回 11/11 通期 予想	増減	増減要因							
				営業損益					営業外損益		
				為替差	価格差（販売価格）	価格差（コスト他）	数量差	その他	受取配当金	持分法損益	その他
マテリアル領域	1,150	1,326	+175	△16	+47	+241	△32	△62	△0	+9	△10
製錬・資源循環	1,084	1,244	+160	△15	+38	+236	△35	△60	-	+9	△11
伸銅品	90	111	+20	△0	+8	+5	+2	+2	△0	-	+1
プロダクト領域	266	388	+122	+11	+217	△124	△6	+24	+0	+6	△7
超硬製品	185	267	+81	+11	+201	△124	△24	+22	+0	-	△4
高機能製品	80	121	+40	△0	+16	△0	+18	+1	+0	+6	△2
資源	458	601	+143	+0	-	-	-	△0	+89	+49	+3
再生可能エネルギー	15	16	+1	-	-	-	-	+0	-	-	+0
その他*2	△90	△133	△42	-	-	-	+32	+16	△5	△47	△40
合計（経常利益）	1,800	2,200	+400	△3	+265	+116	△6	△21	+84	+18	△53

*1販売価格・原料コスト差引効果（p.12 ご参照）　*2その他事業、連結調整額含む

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

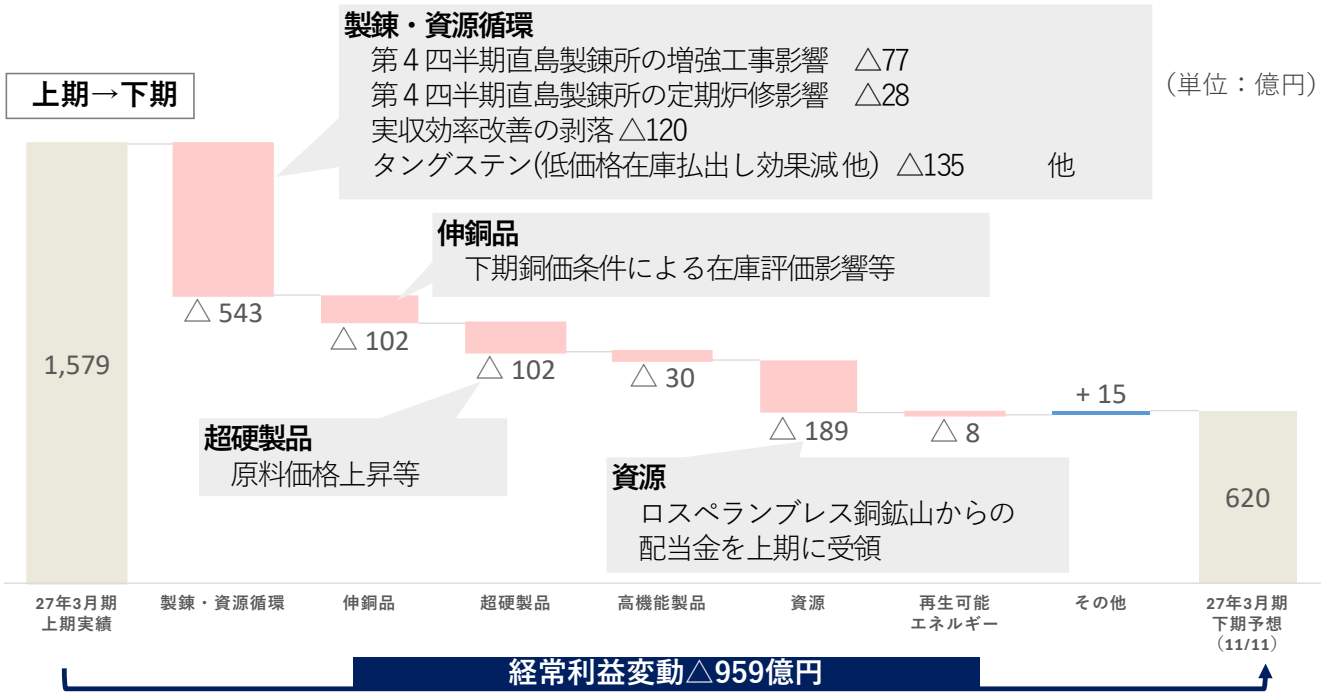
13

続く13ページには、これらの変動要因をセグメント別に記載しておりますが、主な要因については前ページでご説明しましたので、セグメント別の詳細については資料をご参照ください。

続いて、14ページをご覧ください。

2027年3月期 上期実績から下期予想への利益増減要因内訳

上期の銅鉱山配当、実収効率改善、タングステンの低価格在庫払出効果の剥落に加え、直島製錬所の増強に伴う炉修期間伸長等の抜本的構造改革推進により、下期は減益を見込む



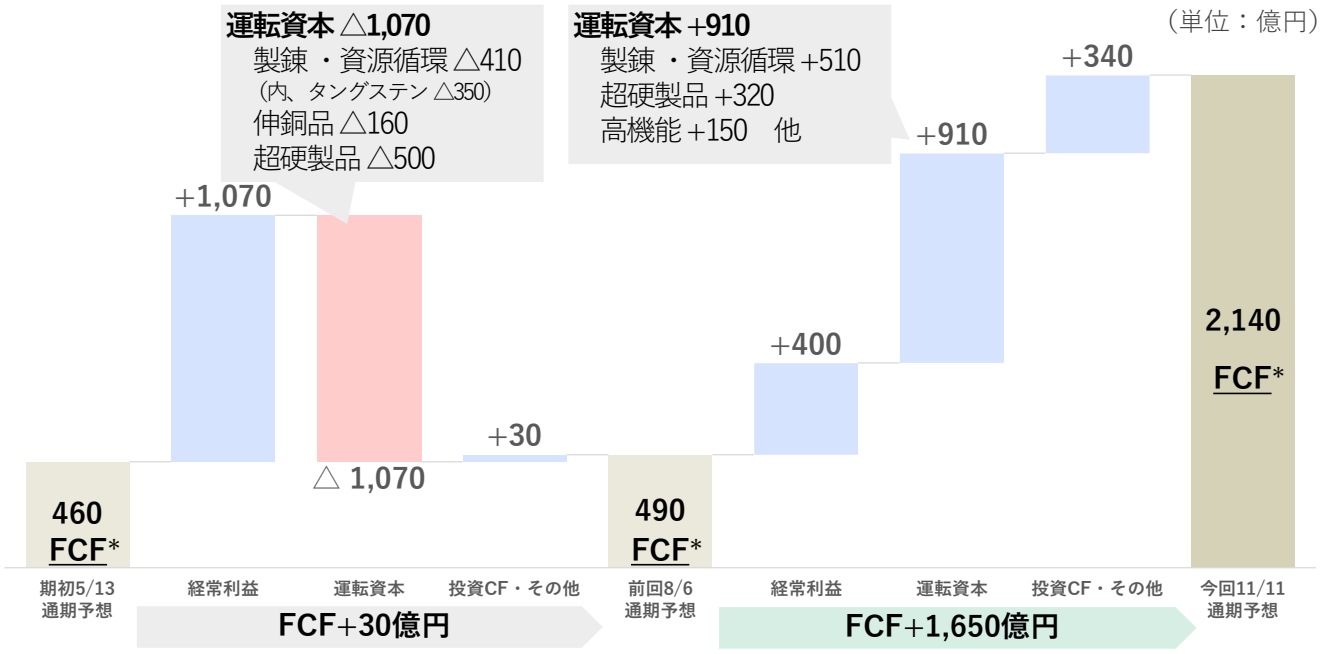
Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

14

上期から下期への利益変動についてご説明します。
上期の経常利益1,579億円に対し、下期は620億円の予想であり、約960億円の減益を見込んでいます。
上期から下期にかけて減益を見込む主な要因は、三つあります。
一つ目は、タングステンの低価格在庫払出し効果や実収効率改善効果など、上期に利益を押し上げた要因の剥落です。
二つ目は、将来の収益力向上に向けた構造改革、すなわち直島製錬所の増強工事を伴う長期炉修の影響です。
三つ目は、上期に計上した鉱山配当など、上期に偏った利益の剥落です。
したがって、減益幅を評価する際には、需要動向に加え、上期に集中した鉱山配当や利益押上げ要因の剥落、直島の長期炉修などの影響を分けてご覧いただく必要があります。

2027年3月期通期予想　キャッシュフロー

利益の上振れに加え、運転資本の圧縮や投資時期の見直し等により、FCF*は、前回予想から大幅に増加。株主還元は、今後の投資計画、財務規律等の見通しに関する精査を踏まえ今後判断



*FCF=フリー・キャッシュ・フロー

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

15

最後に、15ページのキャッシュ・フローについてご説明します。
今回、通期のフリー・キャッシュ・フロー予想を、前回予想の490億円から2,140億円へ、1,650億円引き上げました。
田中からも申し上げたとおり、今回の改善は利益の上振れだけによるものではありません。
引き上げ額1,650億円の内訳は、利益要因が400億円、運転資本要因が910億円、投資CF・その他が340億円です。
運転資本の改善が大きく寄与したことは、利益のキャッシュ化という点でも重要な成果と捉えています。
今後も運転資本の構造的な改善を進め、利益をより迅速にキャッシュへ転換できる経営体質への変革を進めてまいります。
また、こうして生み出したキャッシュを、より高いリターンが期待できる成長投資へ再投資するとともに、財務健全性と株主還元にも適切に配分することで、企業価値の向上につなげてまいります。
私からのご説明は以上です。

参考情報

セグメント概況　製錬・資源循環

上期実績

タングステン価格高騰前の低価格在庫払出効果、実収効率改善、円安による在庫評価影響、原料構成差増により増益

項目		26年3月期 上期実績	27年3月期 上期実績	増減
売上高	億円	5,881	9,421	+3,539
営業利益 (在庫評価影響除く)	億円	29 (84)	890 (890)	+861 (+805)
経常利益 (在庫評価影響除く)	億円	19 (77)	893 (896)	+874 (+819)

26年3月期上期経常利益	19
為替差	+66
価格差（販売価格）	+973
価格差（コスト他）	△369
数量差	△23
その他（営業内）	+214
受取配当金	+0
持分法損益	+12
その他（営業外）	+0
27年3月期上期経常利益	893

通期予想

タングステン原料価格差、硫酸等副産物価格の上昇等により増益の見込み

前回8/6 通期予想	今回11/11 通期予想	増減
18,172	17,661	△511
1,102 (1,085)	1,265 (1,264)	+162 (+178)
1,084 (1,066)	1,244 (1,246)	+160 (+179)

前回8/6通期予想経常利益	1,084
為替差	△15
価格差（販売価格）	+38
価格差（コスト他）	+236
数量差	△35
その他（営業内）	△60
受取配当金	-
持分法損益	+9
その他（営業外）	△11
今回11/11通期予想経常利益	1,244

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

セグメント概況　伸銅品

上期実績

銅価格上昇に伴う在庫評価影響、販売価格適正化、需要改善取り込みによる販売数量増により増益

項目		26年3月期 上期実績	27年3月期 上期実績	増減
売上高	億円	1,555	2,378	+822
営業利益 （在庫評価影響除く）	億円	7 (5)	113 (53)	+105 (+48)
経常利益 （在庫評価影響除く）	億円	1 (0)	106 (47)	+105 (+47)

26年3月期上期経常利益	1
為替差	+0
価格差（販売価格）	+18
価格差（コスト他）	+60
数量差	+17
その他（営業内）	+8
受取配当金	+0
持分法損益	-
その他（営業外）	△0
27年3月期上期経常利益	106

通期予想

銅価格の前提条件見直しによる在庫評価影響、販売価格適正化により増益の見込み

前回8/6 通期予想	今回11/11 通期予想	増減
4,554	5,106	+551
107 (89)	126 (100)	+19 (+10)
90 (73)	111 (85)	+20 (+11)

前回8/6通期予想経常利益	90
為替差	△0
価格差（販売価格）	+8
価格差（コスト他）	+5
数量差	+2
その他（営業内）	+2
受取配当金	△0
持分法損益	-
その他（営業外）	+1
今回11/11通期予想経常利益	111

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

セグメント概況　超硬製品

上期実績

為替の円安、原料価格高騰に対応する販売価格適正化、自動車需要の回復取り込み、一時的な需要増による増益

項目		26年3月期 上期実績	27年3月期 上期実績	増減
売上高	億円	691	884	+193
営業利益	億円	55	189	+133
経常利益	億円	58	184	+126

26年3月期上期経常利益	58
為替差	+31
価格差（販売価格）	+113
価格差（コスト他）	△73
数量差	+30
その他（営業内）	+32
受取配当金	△0
持分法損益	-
その他（営業外）	△7
27年3月期上期経常利益	184

通期予想

一時的な需要増の一服による販売数量の減少、および原料高に対応する販売価格適正化の効果を織り込み増益の見込み

前回8/6 通期予想	今回11/11 通期予想	増減
1,662	1,807	+145
189	275	+85
185	267	+81

前回8/6通期予想経常利益	185
為替差	+11
価格差（販売価格）	+201
価格差（コスト他）	△124
数量差	△24
その他（営業内）	+22
受取配当金	+0
持分法損益	-
その他（営業外）	△4
今回11/11通期予想経常利益	267

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

セグメント概況　高機能製品

上期実績

製錬会社向け銅製品の一時的増加、半導体向けシール製品等の販売数量増加により増益

項目		26年3月期 上期実績	27年3月期 上期実績	増減
売上高	億円	1,094	1,516	+422
営業利益	億円	15	75	+60
経常利益	億円	13	75	+61

26年3月期上期経常利益	13
為替差	+4
価格差（販売価格）	+15
価格差（コスト他）	△0
数量差	+32
その他（営業内）	+7
受取配当金	△0
持分法損益	+4
その他（営業外）	△3
27年3月期上期経常利益	75

通期予想

AI・半導体向け製品の販売価格改定及び販売数量増加により増益の見込み

前回8/6 通期予想	今回11/11 通期予想	増減
2,847	3,037	+190
93	130	+36
80	121	+40

前回8/6通期予想経常利益	80
為替差	△0
価格差（販売価格）	+16
価格差（コスト他）	△0
数量差	+18
その他（営業内）	+1
受取配当金	+0
持分法損益	+6
その他（営業外）	△2
今回11/11通期予想経常利益	121

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

ＵＢＥ三菱セメント社概況

UBE三菱セメント社連結損益計算書

（単位：億円）

項目		26年3月期 上期実績	27年3月期 上期実績
売上高	国内事業	1,795	1,893
	海外事業	879	916
	計	2,675	2,809
営業利益	国内事業	90	100
	海外事業	164	116
	計	255	216
経常利益		271	219
親会社株主に帰属する純利益		130	120

当社持分法投資損益

持分法投資損益	60	56

UBE三菱セメント社諸元

項目		26年3月期 上期実績	27年3月期 上期実績
セメント(国内総需要)	万ｔ	1,535	1,450
セメント(国内)販売数量	万ｔ	375	348
セメント(米国)販売数量	万st	81	69
生コン(米国)販売数量	万cy	313	284
一般炭価格(参考指標)	$/ｔ	105	135
ドル為替	円/$	146	159

※上記一般炭価格は、実際の調達価格とは異なる。

（参考）26年９月末 連結貸借対照表　（単位：億円）

総資産	8,212	有利子負債	2,314	自己資本	3,153
自己資本比率	38.4%	ネットD/Eレシオ	0.48倍		

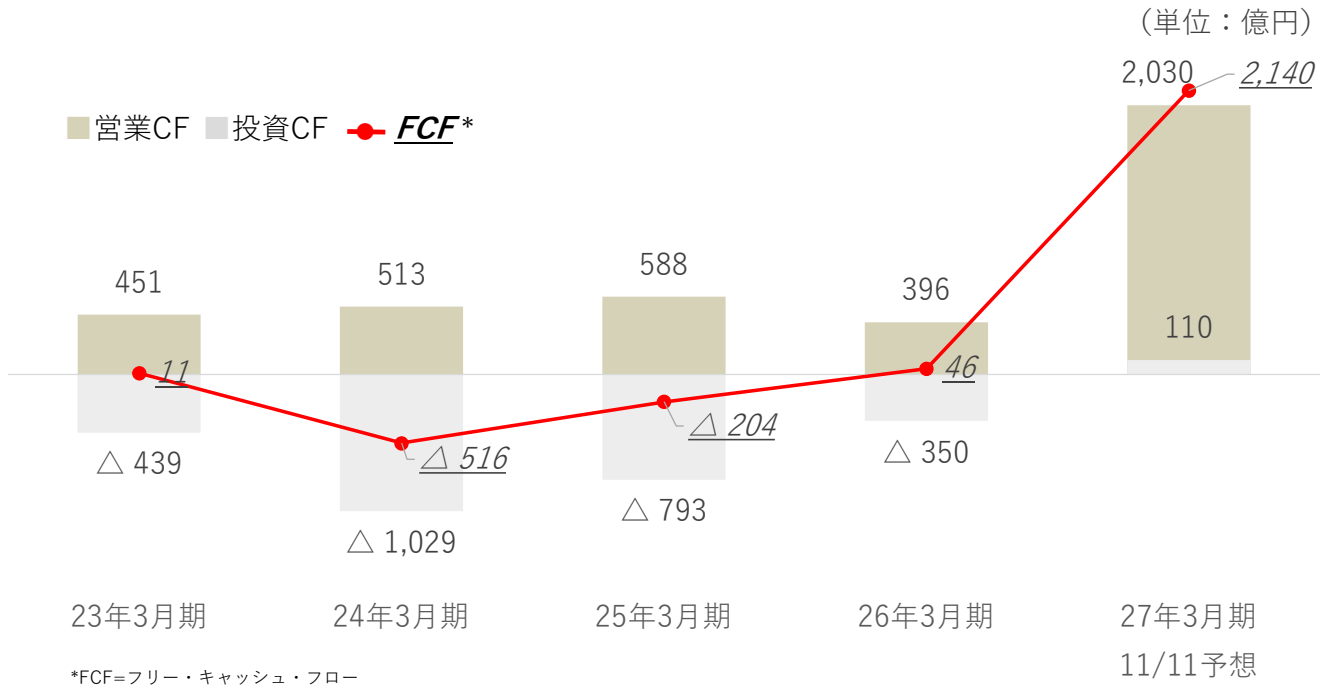
2027年3月期 上期

- **国内事業：**国内セメント事業は、建設現場の人手不足、工期の長期化や天候不順等による国内需要減少の影響を受け、セメントの販売数量は前年同期を下回ったものの、前年度に実施した値上げの浸透により販売価格は上昇した。また、環境エネルギー事業における、前年度に実施した発電設備の定修及び設備トラブルの反動等による販売数量の増加とコストの減少が寄与した。これにより国内事業全体では、中東情勢を背景とした原燃料価格高騰の影響は受けたものの前年同期に比べて増収増益
- **海外事業：**米国の金利高止まりを背景とした民間需要の低迷継続等により販売数量は減少したものの、円安の影響により前年同期に比べて増収となった。営業利益は中東情勢の影響による燃料費上昇等もあり、前年同期に比べて減益

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

キャッシュフロー

- 経常利益の増益、運転資本の圧縮等によりFCFが大幅に増加
- 株主還元は、今後の投資計画、財務規律等の見通しに関する精査を踏まえ今後判断



*FCF=フリー・キャッシュ・フロー

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

四半期業績の推移　セグメント別

（単位：億円）		26年3月期							27年3月期				
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期予想	通期予想
マテリアル領域	売上高	3,320	2,995	6,315	3,557	4,396	7,954	14,270	4,721	5,261	9,983	9,372	19,355
	営業利益	△52	110	57	116	287	404	461	244	713	958	404	1,362
	経常利益	△66	107	41	125	281	407	448	260	694	954	371	1,326
製錬・資源循環	売上高	3,086	2,795	5,881	3,299	4,108	7,408	13,290	4,485	4,935	9,421	8,239	17,661
	営業利益	△62	91	29	59	211	270	299	205	685	890	374	1,265
	経常利益	△74	93	19	68	208	277	296	222	671	893	350	1,244
伸銅品	売上高	768	787	1,555	963	1,061	2,025	3,581	1,147	1,231	2,378	2,728	5,106
	営業利益	△4	11	7	57	87	145	152	59	53	113	13	126
	経常利益	△6	8	1	56	84	141	142	58	47	106	4	111
プロダクト領域	売上高	891	894	1,785	946	1,085	2,032	3,818	1,175	1,226	2,401	2,443	4,845
	営業利益	37	33	71	55	71	127	198	118	146	265	139	405
	経常利益	35	36	72	62	72	134	206	120	139	260	128	388
超硬製品	売上高	342	348	691	369	412	781	1,472	454	430	884	923	1,807
	営業利益	32	23	55	38	48	87	142	86	103	189	85	275
	経常利益	31	27	58	41	51	92	151	85	98	184	82	267
高機能製品	売上高	548	545	1,094	577	673	1,250	2,345	720	796	1,516	1,520	3,037
	営業利益	5	10	15	17	22	40	55	32	43	75	54	130
	経常利益	4	9	13	20	20	41	55	34	40	75	45	121
資源	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△7	△8	△15	△7	△7	△14	△30	△7	△7	△14	△19	△33
	経常利益	19	13	33	225	27	253	286	140	255	395	206	601
再生可能エネルギー	売上高	13	8	22	20	19	39	62	21	17	39	39	78
	営業利益	3	△2	1	5	3	8	10	8	2	10	6	17
	経常利益	1	△9	△8	3	12	16	8	10	2	12	4	16
その他*	売上高	88	86	175	21	93	115	290	52	△1	50	169	220
	営業利益	△7	2	△5	△5	△24	△29	△35	△34	△20	△54	△47	△101
	経常利益	8	19	28	27	△30	△2	25	△13	△30	△43	△89	△133
合計	**売上高**	**4,314**	**3,985**	**8,299**	**4,545**	**5,595**	**10,141**	**18,440**	**5,970**	**6,504**	**12,474**	**12,025**	**24,500**
	営業利益	**△26**	**135**	**109**	**164**	**331**	**495**	**605**	**329**	**835**	**1,165**	**484**	**1,650**
	経常利益	**△1**	**168**	**167**	**444**	**363**	**808**	**975**	**519**	**1,060**	**1,579**	**620**	**2,200**

*その他事業、連結調整額含む

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

セグメント別内訳

（単位：億円）	前回8/6 通期予想(a)			今回11/11 通期予想(b)			増減 (b-a)		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
マテリアル領域	19,426	1,185	1,150	19,355	1,362	1,326	△71	+177	+175
製錬・資源循環	18,172	1,102	1,084	17,661	1,265	1,244	△511	+162	+160
伸銅品	4,554	107	90	5,106	126	111	+551	+19	+20
プロダクト領域	4,509	282	266	4,845	405	388	+335	+122	+122
超硬製品	1,662	189	185	1,807	275	267	+145	+85	+81
高機能製品	2,847	93	80	3,037	130	121	+190	+36	+40
資源	－	△34	458	－	△33	601	－	+0	+143
再生可能エネルギー	79	16	15	78	17	16	△0	+0	+1
その他*	△16	△150	△90	220	△101	△133	+236	+49	△42
合計	**24,000**	**1,300**	**1,800**	**24,500**	**1,650**	**2,200**	**+500**	**+350**	**+400**

＊その他事業、連結調整額含む

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

諸元　1/2

主要製品の生産・販売動向

項目			26年3月期							27年3月期				
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期予想	通期予想
電気銅	生産量	千ｔ	81	101	181	86	87	174	355	80	82	161	125	286
	販売量	千ｔ	77	89	166	83	85	167	333	71	75	146	110	256
金	生産量	t	4	4	8	4	4	8	16	3	3	7	5	12
	販売量	t	4	4	8	4	4	8	16	3	4	7	5	12
銀	生産量	t	49	53	102	58	57	115	217	50	52	102	94	196
	販売量	t	47	55	102	55	60	115	217	48	53	102	87	188
伸銅品	販売量	千ｔ	31	31	62	34	32	66	127	31	32	63	68	132

金属価格・為替の推移

項目		26年3月期							27年3月期				
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期予想	通期予想
ドル為替	円/$	145	147	146	154	157	156	151	159	159	159	158	159
ユーロ為替	円/€	164	172	168	179	184	182	175	185	183	184	180	182
銅価格	¢/lb	432	444	438	504	583	543	491	604	641	622	590	606
金価格	$/oz	3,280	3,454	3,367	4,145	4,877	4,511	3,939	4,516	4,268	4,392	4,000	4,196
パラジウム価格	$/oz	990	1,171	1,081	1,469	1,715	1,592	1,336	1,414	1,307	1,360	1,100	1,230
APT価格（タングステン）	$/MTU	410	520	465	728	1,758	1,243	854	3,069	3,023	3,046	2,500	2,773

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

諸元　2/2

鉱山配当額の推移

項目		26年3月期							27年3月期				
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期予想	通期予想
Los Pelambres	配当額　億円	–	–	–	181	2	183	183	95	210	305	72	378
Escondida	配当額　億円	22	–	22	19	4	23	46	28	9	37	37	74
鉱山配当計	配当額　億円	**22**	**–**	**22**	**200**	**6**	**207**	**229**	**123**	**220**	**343**	**109**	**453**

持分法投資損益の推移

（単位：億円）

項目	当社持分	26年3月期							27年3月期				
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期予想	通期予想
Mantoverde S.A.	30%	3	3	7	21	18	39	47	8	27	36	107	143
その他	-	38	45	83	49	30	80	164	59	40	100	75	176
合計		**42**	**49**	**91**	**71**	**49**	**120**	**212**	**68**	**68**	**136**	**182**	**319**

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

原材料の在庫評価影響

（単位：億円）		26年3月期							27年3月期				
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期予想	通期予想
製錬・資源循環	営業利益	△62	91	29	59	211	270	299	205	685	890	374	1,265
	在庫評価影響	*△44*	*△10*	*△54*	*+10*	*+1*	*+12*	*△42*	*△0*	*+0*	*+0*	*+0*	*+1*
	在庫評価影響を除く営業利益	△18	102	84	48	209	257	341	205	684	890	374	1,264
	経常利益	△74	93	19	68	208	277	296	222	671	893	350	1,244
	在庫評価影響	*△49*	*△8*	*△58*	*+15*	*+4*	*+20*	*△38*	*+0*	*△3*	*△2*	*+0*	*△1*
	在庫評価影響を除く経常利益	△24	101	77	52	203	256	334	221	674	896	350	1,246
伸銅品	営業利益	△4	11	7	57	87	145	152	59	53	113	13	126
	在庫評価影響	*△6*	*+8*	*+2*	*+60*	*+27*	*+88*	*+90*	*+32*	*+26*	*+59*	*△32*	*+26*
	在庫評価影響を除く営業利益	1	3	5	△3	59	56	62	26	26	53	46	100
	経常利益	△6	8	1	56	84	141	142	58	47	106	4	111
	在庫評価影響	*△6*	*+8*	*+2*	*+60*	*+27*	*+88*	*+90*	*+32*	*+26*	*+59*	*△32*	*+26*
	在庫評価影響を除く経常利益	△0	+0	△0	△3	56	53	52	26	21	47	37	85
全社合計	営業利益	△26	135	109	164	331	495	605	329	835	1,165	484	1,650
	在庫評価影響	*△50*	*△2*	*△52*	*+71*	*+29*	*+100*	*+47*	*+32*	*+27*	*+59*	*△32*	*+27*
	在庫評価影響を除く営業利益	24	138	162	93	301	394	557	297	808	1,106	516	1,622
	経常利益	△1	168	167	444	363	808	975	519	1,060	1,579	620	2,200
	在庫評価影響	*△55*	*△0*	*△56*	*+75*	*+32*	*+108*	*+52*	*+33*	*+23*	*+56*	*△32*	*+24*
	在庫評価影響を除く経常利益	54	168	223	368	331	700	923	485	1,036	1,522	653	2,175

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

お問合せ先

三菱マテリアル株式会社
IR室

〒100-8117　東京都千代田区丸の内3-2-3　丸の内二重橋ビル

ml-mmcir@mmc.co.jp
https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/index.html

最新の適時開示など、当社IR に関する情報のメール配信サービスをご希望の方は、
以下のURLからご登録ください
https://ir.mmc.co.jp/ja/ir/irmail.html

免責事項

本資料における見通しは、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。
実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料業績予想と大きく異なる可能性があります。
本資料に掲載されている内容・写真・図表などの無断転載を禁止します。